

音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 1年次

ドラム総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<p>・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン</p> <p>・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、調音等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。					
到達目標					
<p>様々なシチュエーションで使われる音楽理論。その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。</p> <p>また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。</p> <p>世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 5～8回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 9～12回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 13～16回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 17～19回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 24～27回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 28～31回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 32～35回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 36～37回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナン」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論等」の指導を行う。				
授業概要					
音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。 ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。 ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	カウントの重要性/8ビートのリズムパターン/ダイナミクスへのトライ/シンコペーション
【前期】 5～8回目	ピックアップノートのスタート/Que出しのトライ/マイナーブルース/ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	フォークロックのニュアンス/セクションとりハーサルマーク/Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期内容のまとめ ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナル譜面へのトライ/スウィング & シャッフル/ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	スウィングビートへのトライ/ジャズシャッフル/12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	16ビートのFunkフィール/Funkフィールのアンサンブル/ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期内容のまとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「リズムリーディングワークアウト」は譜面のみでのやり取りになります。 この授業を通して譜面の初見のスピード、あらゆる記号や表現力を高め、即戦力を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MR/ブレイング実習 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「作曲編曲」の指導を行う。				
授業概要					
音楽を記号で書き記したものを“楽譜”。その中でも、リズム譜、構成譜を中心に読む訓練と、それに伴うリズム感覚を養うトレーニングを行う授業です。 スネアだけのシンプルなラインを読むところからスタートし、セット全体のコンビネーション、さらには初見演奏に対応できる力を身につけていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜上の音符や休符、構成等の表記法と仕組み、意味を学習させ、読みこなせる力をつける。 ・各音符の細分化された目盛りを意識し、カウントの種類と発音法を学ぶ。 ・常にカウントを歌いながら演奏できるようになる。 ・一般的な楽譜の最低限の常識を理解し、実際の演奏における情報記録媒体として活用できるようにスキルとして身に付ける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	拍子、細分化された音符の目盛り(サブディビジョン)の解説、音符や休符の仕組み テキストUnit1 全音符～4分音符とそれらに対応する休符 カウントについて
【前期】 5～8回目	テキストUnit2～4 略記法 8分音符 2Part Counting スティックングについて
【前期】 9～12回目	テキストUnit5～7 16分音符 3連符について 付点音符
【前期】 13～16回目	Unit8～Unit10 付点音符 3連符の様々なコンビネーション
【前期】 17～19回目	Unit10～12 前期まとめ ■前期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Unit13～14 D.S.D.Cを使った楽譜練習
【後期】 24～27回目	Unit15～Unit17 6連符と6Part Countingについて
【後期】 28～31回目	Unit18～20 カウンティングの徹底、サブディビジョンの説明
【後期】 32～35回目	応用編:ポリリズム、リズムックノーテーションについて
【後期】 36～37回目	応用編 理解とまとめ ■後期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽器演奏において、楽譜を理解し読譜力、記譜力を高めることはとても重要です。プロフェッショナルなレベルにおいては、他の演奏者との正確でスムーズなコミュニケーションを促したり、自己の演奏や練習の手がかりや記録になったりします。また、音のタイミングを理解したり楽曲の構成を把握するのにも大きな助けになります。高度な物を理解するにしても最後には基本の習熟度如何に関わってきます。一つ一つ理解していくことで必ず読譜力が身に付き、音楽活動のプラスになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ベース&ドラム I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、楽器知識等」の指導を行う。				
授業概要					
ドラマーが現場で要求される様々なシチュエーションを想定し、リズム帯の演奏バリエーションを深めるとともにベーシストとのコンビネーション、コミュニケーション力を高めるメソッドを学習します。・課題曲をもとに、ジャンルを問わず幅広い楽曲のリズムパターンを習得する。各ジャンルでのリズムの位置関係を学ぶ。					
到達目標					
・課題曲のリズムパターンを習得しジャンルに合ったリズムの在り方を知る。 ・ベースとのコンビネーション、コミュニケーションを深め、演奏のクオリティに反映させる技術を身につける。 ・音符の長さ、位置関係、リズム隊として楽曲を演奏する上で、より深くリズムの在り方を理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲1】8ビートの王道パターンでベースとのコンビネーションを理解する。 【課題曲2】ノリのあるベースのコードラインを、4分のキックパターンで支えるコンビネーションを理解する。
【前期】 5～8回目	【課題曲3】Oneコード進行を主体とした楽曲。ウラを強調したリズムパターンとベースとのコンビネーションを理解する。 【課題曲4】コードチェンジ時の点とどしりとしたリズムパターンを理解する。
【前期】 9～12回目	【課題曲5】スムーズ且つ軽快なビートと、大きなノリ2つの共存を知る。 【課題曲6】ダイナミックなグルーブと、うねりのあるベースとのリズムパターンを理解する。
【前期】 13～16回目	【課題曲7】激しさの中にしっかりとしたリズム隊の支えを知る。 【課題曲8】1拍抜きとシンコペーションを絡めたリズムパターンを理解する。
【前期】 17～19回目	【課題曲9】3連のノリと、ジャングルビートを織り交ぜたリズムパターンでコンビネーションを図る。 【前期まとめ】前期課題曲の中から抜粋したコンビネーションをブラッシュアップする。 ■前期試験：課題曲の演奏にて「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲10】ベースのスラップ奏法に対し、タイトなリズムパターンでコンビネーションを図る。 【課題曲11】レイドバックしたベースラインに対し、楔の様に絡むキックとリズムパターンを知る。
【後期】 24～27回目	【課題曲12】速いパルスの楽曲に対し、脱力したプレイでベースとのコンビネーションを図る。 【課題曲13】4ビート、ベースのウォーキングと、シンバルレガート/ハイハットのテンポキープでJAZZを学ぶ。
【後期】 28～31回目	【課題曲14】ゆったりとしたボサノバのリズム、シンコペーションするベースラインと基本のリズムパターンのコンビネーションを知る。 【課題曲15】スローバラードな楽曲、音符の長さ、楽曲を支えるテンポキープとグルーブを知る。
【後期】 32～35回目	【課題曲16】表と裏が交互にくる変拍子。パルスを感じ、構成、テンポキープ、コンビネーションを図る。 【課題曲17】16feel、キメの多い楽曲。構成を理解し、ベースと息の合ったプレイを学ぶ。
【後期】 36～37回目	【課題曲17】R&B、ミドルテンポで少しハネた気持ちの良い楽曲。グルーブを重きに、ボーカルをイメージして演奏する。 【年間まとめ】後期課題曲の中から抜粋し、ブラッシュアップする。 ■後期試験：課題曲の演奏にて「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コンビネーション/ テンポキープ / グループ / アイコンタクト」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	バンドの中で「リズム隊」がしっかりしていると、グループが決まり、方向性も見えやすくなります。ドラムとベースの関係は楔の様で、曲によってはジャストで合わせるもよし、ベースが少しレイドバックしたバスドラとの関係性など、突き詰めれば詰めるほど奥深く重要なパートです。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレインディングテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口憐二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、楽器の技術や知識等」の指導を行う。				
授業概要					
ドラミングの基礎ともいえる、ルーディメンツをタイムキープ、モーションの効率化、4ウェイコーディネーションなど複合的に取り入れ、より応用性の高いアプローチとして成熟させていきます。ドラムセット演奏における基本技術。特にハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称も覚えながら体系的に学んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習し、基本を正確に理解&習得する。 ・それぞれの関係性を学び、それに伴いグラッドストーンやモーラー等の伝統基本奏法を身につける。 ・音量の強弱、アクセントのコントロール、スピード、巧緻性等の向上を図る。 ・ドラマーに必要な基本技術を理解し、各自の音楽性や表現力と技術との融合を促し、発展させていける段階に引き上げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ドラマーにとっての基本奏法、ルーディメンツ等の習得の必要性、重要性の説明 グラッドストーン奏法の基本グリップ、リバウンドの感覚の習得
【前期】 5～8回目	4つの基本ストロークとそれによるアクセントとノーマルアクセントの叩き分け、ダブル・ストロークの習得
【前期】 9～12回目	PAS40ルーディメンツ学習 ショート・ロール系 セットへの応用
【前期】 13～16回目	PAS40ルーディメンツ学習 パラディドル系 試験
【前期】 17～19回目	PAS40ルーディメンツ学習 フラム系 コンビネーション練習 ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	PAS40ルーディメンツ学習 ドラッグ系、インバーテッド系
【後期】 24～27回目	関連性のあるルーディメンツの統括 手足のコンビネーション ヘルタ等
【後期】 28～31回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ①～② フット・テクニックへの基本奏法の応用
【後期】 32～35回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 試験
【後期】 36～37回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ③～④ まとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出る取り組みやすい楽器ですが、一方で、技術的に上達するには手足の基本奏法をきちんと習得する必要があります。それには独習で身につけるよりもレッスンで正確な知識と練習方法を学ぶ事が近道です。ドラムセット演奏の可能性を自由に引き出せるようになりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーター I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、リズム感等」の指導を行う。				
授業概要					
あらゆるジャンルにおけるフィルの違いを理解・体感していくと同時に、グループを構成するとされているリズム、シンコペーション、アーティキュレーション、サウンドの強化をおこないます。ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グループの捉え方を学びます。また、変拍子の楽曲を演奏するために必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。					
到達目標					
・リズムのノリを体得する。 ・ビート、フィルインの発想力を培う。 ・カウントを身体の中に宿す。 ・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。 ・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	4分音符、8分音符、16音符の中で構成されるビート(H.H./S.D./B.D.の3点)に触れてみる練習
【前期】 5～8回目	アクセント打ち(4分音符、8分音符、16音符)で構成
【前期】 9～12回目	3連符、6連符で構成されるビートに触れてみる練習
【前期】 13～16回目	アクセント打ち(3連4符、6連符)で構成
【前期】 17～19回目	4分音符、8分音符、16音符、3連符、6連符で構成されるフィルインの練習 ■前期試験: 課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ユニゾンフレーズに対しての捉え方をあらゆる方向からアプローチする練習
【後期】 24～27回目	オスティナートフレーズをビートとフィルの両面からアプローチする練習
【後期】 28～31回目	クリックトレーニング(8分音符ウラのアプローチ)
【後期】 32～35回目	クリックトレーニング(16分音符4つ目、2つ目のアプローチ)
【後期】 36～37回目	クリックトレーニング(3連符3つ目、2つ目のアプローチ) ■後期試験: 課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	なんとなく叩いていたリズムを、構成しているものがより明確になりコントロールできる状態を目指します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ドラムスタイル I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。					
到達目標					
・様々なスタイルの中からリズムやグルーブにフォーカス。多くの類例を通してアンサンブルの中で課題フレーズを反復し、バンド演奏において必要となるリズム感、を底上げします。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 5～8回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 9～12回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 13～16回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 24～27回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 28～31回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムというパートの特性もありますが、主体性を持って何かを企画し、行動に移し、形にする事を余りしない傾向があります。これからの時代のドラマーは、より音楽や制作活動を包括して捉えていくのが望ましいはずで、自分の特性を見極めて、自分からどんどん発信していく力を身につけてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<p>・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン</p> <p>・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターしていきます。また、バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけます。週一で一課題を90分の予習後、ギター、ベース、ドラムでアンサンブルを行うリズム、グループに重点を置いた授業。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ギター、ベース、ドラムでアンサンブルする上で意識するリズムやポイントを様々なジャンルの課題曲を通して習得する。 ・自分の演奏するパート以外に意識を向けて全体でアンサンブルを組み上げる為の集中力を上げる。 ・全体でリズムをグループさせるタイム感を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	unit1～4 ・unit1:カウントの重要性 ・unit2:8ビートのリズムパターン ・unit3:ダイナミクスヘトライ ・unit4:シンコペーション
【前期】 5～8回目	unit5～8 ・unit5:ピックアップノートのスタート ・unit6:Que出しへのトライ ・unit7:マイナーブルース ・unit8:ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	unit9～11 ・unit9:フォークロックのニュアンス ・unit10:セクションとリハーサルマーク ・unit11:Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ/unit1～11までのおさらい ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	unit12～14 ・unit12:オリジナル譜面へのトライ ・unit13:スウィング & シャッフル ・unit14:ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	unit15～17 ・unit15:スウィングビートへのトライ ・unit16:ジャズシャッフル ・unit17:12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	unit18～20: ・unit18:16ビートのFunkフィール ・unit19:Funkフィールのアンサンブル ・unit20:ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期まとめ ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業でアンサンブルに必要な集中力やリズムのポイントを養って、高いアンサンブルスキルを身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習/ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う				
授業概要					
様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 9～16回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 17～24回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 25～32回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 33～38回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 47～54回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 55～62回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 63～70回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 71～74回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	

音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 1年次

ドラム&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コンピューターレコーディング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論 調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて長年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器屋音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
楽器奏者が必要なレコーディングの技術と知識を身につけます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・マイキングやインターフェースの調整など、レコーディングに必要な機材の基礎知識を身に付ける ・レコーディング時のPCでのDAWオペレーションを理解し実践出来るようになる。 ・レコーディングした音源をエディット、ミックスで調整出来るようになる。 ・楽曲に対して録音が出来ようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レコーディングの基礎知識、機材や備品の使用方法について
【前期】 5～8回目	インターフェースやDAWの接続、録音について
【前期】 9～12回目	楽器の接続やマイキング、レコーディング
【前期】 13～16回目	レコーディングした音の確認、トラックやミキサーについて
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験: 楽器のレコーディング技術と知識の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	レコーディングした音のエディット方法、ミックス術
【後期】 24～27回目	楽曲に合わせてレコーディング
【後期】 28～31回目	ミックスダウンの進め方、手法について
【後期】 32～35回目	マスタリングの進め方について
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験: DAW上でのオペレーション技術と知識の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今は楽器奏者が自身で自宅やスタジオでレコーディングする事が多くなっています。 レコーディング技術を身に付けて楽曲制作や将来レコーディングの依頼が来た時に役立てましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論等」の指導を行う。				
授業概要					
音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。 ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。 ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。 ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	カウントの重要性/8ビートのリズムパターン/ダイナミクスへのトライ/シンコペーション
【前期】 5～8回目	ピックアップノートのスタート/Que出しのトライ/マイナーブルース/ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	フォークロックのニュアンス/セクションとりハーサルマーク/Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期内容のまとめ ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナル譜面へのトライ/スウィング & シャッフル/ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	スウィングビートへのトライ/ジャズシャッフル/12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	16ビートのFunkフィール/Funkフィールのアンサンブル/ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期内容のまとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「リズムリーディングワークアウト」は譜面のみでのやり取りになります。 この授業を通して譜面の初見のスピード、あらゆる記号や表現力を高め、即戦力を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	MR/ブレイング実習 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「作曲編曲」の指導を行う。				
授業概要					
音楽を記号で書き記したものを“楽譜”。その中でも、リズム譜、構成譜を中心に読む訓練と、それに伴うリズム感覚を養うトレーニングを行う授業です。 スネアだけのシンプルなラインを読むところからスタートし、セット全体のコンビネーション、さらには初見演奏に対応できる力を身につけていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜上の音符や休符、構成等の表記法と仕組み、意味を学習させ、読みこなせる力をつける。 ・各音符の細分化された目盛りを意識し、カウントの種類と発音法を学ぶ。 ・常にカウントを歌いながら演奏できるようになる。 ・一般的な楽譜の最低限の常識を理解し、実際の演奏における情報記録媒体として活用できるようにスキルとして身に付ける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	拍子、細分化された音符の目盛り(サブディビジョン)の解説、音符や休符の仕組み テキストUnit1 全音符～4分音符とそれらに対応する休符 カウントについて
【前期】 5～8回目	テキストUnit2～4 略記法 8分音符 2Part Counting スティックングについて
【前期】 9～12回目	テキストUnit5～7 16分音符 3連符について 付点音符
【前期】 13～16回目	Unit8～Unit10 付点音符 3連符の様々なコンビネーション
【前期】 17～19回目	Unit10～12 前期まとめ ■前期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Unit13～14 D.S.D.Cを使った楽譜練習
【後期】 24～27回目	Unit15～Unit17 6連符と6Part Countingについて
【後期】 28～31回目	Unit18～20 カウンティングの徹底、サブディビジョンの説明
【後期】 32～35回目	応用編:ポリリズム、リズムックノーテーションについて
【後期】 36～37回目	応用編 理解とまとめ ■後期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽器演奏において、楽譜を理解し読譜力、記譜力を高めることはとても重要です。プロフェッショナルなレベルにおいては、他の演奏者との正確でスムーズなコミュニケーションを促したり、自己の演奏や練習の手がかりや記録になったりします。また、音のタイミングを理解したり楽曲の構成を把握するのに大きな助けになります。高度な物を理解するにしても最後には基本の習熟度如何に関わってきます。一つ一つ理解していくことで必ず読譜力が身に付き、音楽活動のプラスになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインテュースデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、調音力等」の指導を行う。				
授業概要					
Logic Pro X等のDAWソフトを用いり基本操作及び楽曲制作の基礎知識を習得します。 PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行って行く上で、どの様なアプローチで楽曲制作していくかを習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。 ・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。 ・生徒自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。 ・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。 ・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 9～16回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 17～24回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 25～32回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なポインティング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 33～38回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/パウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/プラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 47～54回目	プラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 55～62回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 63～70回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 71～74回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	参考書「Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレインディングテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口憐二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、楽器の技術や知識等」の指導を行う。				
授業概要					
ドラミングの基礎ともいえる、ルーディメンツをタイムキープ、モーションの効率化、4ウェイコーディネーションなど複合的に取り入れ、より応用性の高いアプローチとして成熟させていきます。ドラムセット演奏における基本技術。特にハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称も覚えながら体系的に学んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習し、基本を正確に理解&習得する。 ・それぞれの関係性を学び、それに伴いグラッドストーンやモーラー等の伝統基本奏法を身につける。 ・音量の強弱、アクセントのコントロール、スピード、巧緻性等の向上を図る。 ・ドラマーに必要な基本技術を理解し、各自の音楽性や表現力と技術との融合を促し、発展させていける段階に引き上げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ドラマーにとっての基本奏法、ルーディメンツ等の習得の必要性、重要性の説明 グラッドストーン奏法の基本グリップ、リバウンドの感覚の習得
【前期】 5～8回目	4つの基本ストロークとそれによるアクセントとノーマルアクセントの叩き分け、ダブル・ストロークの習得
【前期】 9～12回目	PAS40ルーディメンツ学習 ショート・ロール系 セットへの応用
【前期】 13～16回目	PAS40ルーディメンツ学習 パラディドル系 試験
【前期】 17～19回目	PAS40ルーディメンツ学習 フラム系 コンビネーション練習 ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	PAS40ルーディメンツ学習 ドラッグ系、インバーテッド系
【後期】 24～27回目	関連性のあるルーディメンツの統括 手足のコンビネーション ヘルタ等
【後期】 28～31回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ①～② フット・テクニックへの基本奏法の応用
【後期】 32～35回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 試験
【後期】 36～37回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ③～④ まとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出る取り組みやすい楽器ですが、一方で、技術的に上達するには手足の基本奏法をきちんと習得する必要があります。それには独習で身につけるよりもレッスンで正確な知識と練習方法を学ぶ事が近道です。ドラムセット演奏の可能性を自由に引き出せるようになりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーター I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、リズム感等」の指導を行う。				
授業概要					
あらゆるジャンルにおけるフィールの違いを理解・体感していくと同時に、グループを構成するとされているリズム、シンコペーション、アーティキュレーション、サウンドの強化をおこないます。ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グループの捉え方を学びます。また、変拍子の楽曲を演奏するために必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・リズムのノリを体得する。 ・ビート、フィルインの発想力を培う。 ・カウントを身体の中に宿す。 ・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。 ・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	4分音符、8分音符、16音符の中で構成されるビート(H.H./S.D./B.D.の3点)に触れてみる練習
【前期】 5～8回目	アクセント打ち(4分音符、8分音符、16音符)で構成
【前期】 9～12回目	3連符、6連符で構成されるビートに触れてみる練習
【前期】 13～16回目	アクセント打ち(3連4符、6連符)で構成
【前期】 17～19回目	4分音符、8分音符、16音符、3連符、6連符で構成されるフィルインの練習 ■前期試験: 課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	ユニゾンフレーズに対しての捉え方をあらゆる方向からアプローチする練習
【後期】 24～27回目	オスティナートフレーズをビートとフィルの両面からアプローチする練習
【後期】 28～31回目	クリックトレーニング(8分音符ウラのアプローチ)
【後期】 32～35回目	クリックトレーニング(16分音符4つ目、2つ目のアプローチ)
【後期】 36～37回目	クリックトレーニング(3連符3つ目、2つ目のアプローチ) ■後期試験: 課題曲の演奏にて「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム感 / アドリブ力 / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	なんとなく叩いていたリズムを、構成しているものがより明確になりコントロールできる状態を目指します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ドラムスタイル I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。					
到達目標					
・様々なスタイルの中からリズムやグルーブにフォーカス。多くの類例を通してアンサンブルの中で課題フレーズを反復し、バンド演奏において必要となるリズム感、を底上げします。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等)【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 5～8回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 9～12回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 13～16回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 24～27回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 28～31回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムというパートの特性もありますが、主体性を持って何かを企画し、行動に移し、形にする事を余りしない傾向があります。これからの時代のドラマーは、より音楽や制作活動を包括して捉えていくのが望ましいはずで、自分の特性を見極めて、自分からどんどん発信していく力を身につけてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。				
授業概要					
世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターしていきます。また、バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけます。週一で一課題を90分の予習後、ギター、ベース、ドラムでアンサンブルを行うリズム、グループに重点を置いた授業。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ギター、ベース、ドラムでアンサンブルする上で意識するリズムやポイントを様々なジャンルの課題曲を通して習得する。 ・自分の演奏するパート以外に意識を向けて全体でアンサンブルを組み上げる為の集中力を上げる。 ・全体でリズムをグループさせるタイム感を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	unit1～4 ・unit1:カウントの重要性 ・unit2:8ビートのリズムパターン ・unit3:ダイナミクスヘトライ ・unit4:シンコペーション
【前期】 5～8回目	unit5～8 ・unit5:ピックアップノートのスタート ・unit6:Que出しへのトライ ・unit7:マイナーブルース ・unit8:ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	unit9～11 ・unit9:フォークロックのニュアンス ・unit10:セクションとリハーサルマーク ・unit11:Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ/unit1～11までのおさらい ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	unit12～14 ・unit12:オリジナル譜面へのトライ ・unit13:スウィング&シャッフル ・unit14:ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	unit15～17 ・unit15:スウィングビートへのトライ ・unit16:ジャズシャッフル ・unit17:12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	unit18～20: ・unit18:16ビートのFunkフィール ・unit19:Funkフィールのアンサンブル ・unit20:ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期まとめ ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業でアンサンブルに必要な集中力やリズムのポイントを養って、高いアンサンブルスキルを身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習/ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・中西圭三、TAKUYA(ex.JAM)、TOKIE(ex.ライズ)、唄人羽等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力、表現力等」の指導を行う				
授業概要					
様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 9～16回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 17～24回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 25～32回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 33～38回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 47～54回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 55～62回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 63～70回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 71～74回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	